

# 街を行く

第104回 谷中 Yanaka

## 泣く子も黙る、ザ・商店街

今回は無性に商店街が訪ねたくなり、昔懐かしのレトロを感じさせてくれる街を探していました。レトロと言えばここしかない!と選び出したのが「谷根千」であり、商店街と言えばズバリ「谷中銀座」です。何の疑いもなく地下鉄千代田線に乗り込みました。

千駄木駅で降りて5分も歩けば、谷中銀座の入口に到着です。想像以上に短い商店街で、道幅も広くはありません。しかし昔懐かしいお店の勢ぞろいぶりはレトロを通り越し「ザ・商店街」と言わしめるものがあります。御飯がたくさん盛られたお茶碗を抱えてのぞき込みたい総菜屋、子供の時にわくわくして入った中華そばのある甘味処、禁断の思いで見たい立ち飲みの出来る酒屋、誰が買うのだろうと訝しく思っていた訳のわからない洋品店、なぜこれがこの名産なのかと首を傾げたくなる土産屋。いささか表現が失礼ではありますが、まさに子供の頃に目にしてきた店のオンパレードです。

平日の夕方ではありましたが、かなりのにぎわいで、観光ブームも手伝っているのか、外国人も多く見受けられます。上野―浅草に近く、観光ルートに含まれているのかもしれませんが、商店街を進むと有名な階段に差し掛かり、それを登りきると趣の違う商店街となります。またもや昔懐かしさが漂う佃煮屋さんを発見。

谷中と言えばもう一つは寺院を想像しますが、この商店街にもちらほら見受けられます。多くが日蓮宗のお寺なのは何か意味があるのでしょうか。そのなかの一つのお寺の山門には砲弾の



谷中銀座の「夕焼けだんだん」  
こんどは絶対に日暮れどきに来るぞ!

後が残っていました。幕末の上野の戦争で幕府側の彰義隊が境内に逃げ込んだため、官軍の攻撃を受けたのです。流石に上野に近いこのあたりには歴史のロマン、それも幕末の臭いがはっきりと漂っているのです。商店街の終点は日暮里駅となりますが、このあたりには高層のマンションが建ち込めています。周りと違う雰囲気醸し出しているのが、何とも言えません。

商店街をのんびりと歩くのは久しぶりですから、雰囲気的には(店の総菜で軽く飲んでいる人もちらほらいるので)小生も軽く一杯呑んで行きたい気分です。しかし残念なことに日も明るく、この後もミーティングが控えていましたので、「泣く泣く」駅前でカフェラテとドーナツ。似つかわしくないですね。次回

は絶対に日が暮れる頃に訪れるぞ、と心に誓って山手線に乗り込みました。7月1日から1か月半の間、米国に長期出張となります。次回からしばらくは「米国の街を行く」シリーズでお目にかかります。どうぞご期待ください。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。